寄り道ナビ　（平成24年10月調べ）

豪商が競って菩提寺に寄進したことにより、大きな寺院がたくさんあるのがこの地域の特色です。この地の富を運んだ櫛田川と街道をキーワードに寄り道してみませんか？

MAP	立寄り処	概　要	
A	浄土寺	大和屋菩提寺。境内に大松屋の大日堂が残る	相可
B	相可坊	金剛座寺塔頭（たっちゅう）。駐車場４台利用可	
C	本宗寺	俳人大淀三千風の生家、三井家の菩提寺	
D	伊馥寺	射和石の石垣がみごとな富山家の菩提寺	射和
E	延命寺	竹川家の菩提寺。山門は松阪市最古の木造建築物	
F	蓮生寺	櫛田川中にある竜灯岩にちなむ伝承が残る	
G	乳熊寺	奈良時代、乳熊郷の氏寺。境内に庚申塚がある	中万
H	心光寺	竹口家の菩提寺。道と川の間に山門がある	
I	聖徳寺	集落の東端にある聖徳太子開基の寺	

※この表は裏面の地図をご参照ください。

●**中万・神山一乗寺**：高さ約100メートルの山上にあり景色は絶景。
●**相可周辺・金剛座寺**：万治年中建立（1658）の本堂は多気町内最古の建築物。
●**近長谷寺**：ご本尊「十一面観音像」は国の重文指定。
●**丹生大師**：正式には丹生山神宮寺と言い隣接する丹生神社とともに水銀との関係が深い。

丹生の水銀と伊勢白粉（おしろい）

勢和地区丹生付近では縄文時代から辰砂（水銀を含んだ鉱物）の採取が行われており、付近の遺跡からは粉砕した辰砂を利用した縄文土器や、粉砕に使用したとみられる石臼が発掘されています。また沢山の採取坑が発見されており、盛んに辰砂の色彩（朱）を利用した土器製造や加工が行われていました。

７世紀末、続日本紀には伊勢国から辰砂が献上されたとこ記録があり、丹生産の辰砂であると考えられています。当時の水銀の用途は顔料として用いられたほか、仏像などのメッキの触媒として用いられました。特に東大寺の大仏建立には大量の水銀が使用されました。また、交易品として中国にも輸出されていたようです。

中世以来、中国から水銀を使った白粉の製法が伝わると、近隣の射和地区で伊勢白粉の生産が始まり室町時代に最盛期を迎えます。白粉は伊勢神宮の御師が諸国を回る際、大神宮のお祓いとともに配布したため全国に広まり、莫大な富をこの地にもたらしました。

江戸時代に入ると水銀の産出量は減少しましたが、商人たちは蓄えた富を元手に江戸へ進出し呉服や木綿を販売し伊勢商人の先駆けとなりました。

●**伊勢本街道**：大和と伊勢を最短距離で結ぶ。峠道が多く、往時の風情が残る道として知られ、歩く人が多い。
●**和歌山街道**：和歌山から高見峠を越えて松阪に至る全長45里の道。紀伊徳川家が参勤交代路として整備。
●**和歌山別街道**：飯南町粥見で和歌山街道と分岐し、丹生、長谷を経て田丸へ向かう。

●**伊勢街道**：四日市市日永で東海道と分岐し、伊勢湾岸を津、六軒、松阪、斎宮を経て伊勢に向かう道。
●**熊野道**：玉城町田丸を起点に、女鬼峠、紀勢路を経て国道42号とつかず離れず南に向かう。
※**熊野道**：松阪から国道42号に沿って射和、相可を経て栃原で熊野街道に合する脇道。

伊勢本街道 寄り道マップ

街道のまち 相可（多気町）

豪商の里 射和・中万（松阪市）

両郡橋今昔

古来より櫛田川の往来は渡し舟や簡単な橋を利用していました。明治22年に本格的な木造の橋が完成し、飯野郡（当時）と多気郡を結ぶことから両郡橋と名づけられました。明治41年にはレンガ造の橋脚を持つ木鉄混製の二代目となり、現在の三代目は国道（現・県道160号）の開通に伴って、旧橋より100メートル下流に昭和32年に架けられました。

（初代の両郡橋：鹿東文庫提供）

◆一般社団法人 松阪市観光協会◆
〒515-0017 三重県松阪市京町507-2 TEL 0598-23-7771 FAX 0598-26-4778

街道のまち 相可 と 豪商の里 射和・中万

江戸時代の相可は、大和と伊勢を結ぶ「伊勢本街道」と、熊野街道に抜ける熊野道が出合う宿場として賑わいました。ふたつの道が交わる「札の辻」には、「相鹿七つ井戸三乃井」があり、かつてはここで旅人や馬が喉の渇きを潤しました。今もその周辺には、街道名物の餅や鮎の甘露煮を売る店があり、往時の面影を偲ぶことができます。

櫛田川にかかる両郡橋を渡ると、伊勢商人発祥地の射和・中万地区に入ります。室町時代には櫛田川上流の丹生で産出される水銀で財を蓄えた人々は、江戸時代にいち早く江戸へ進出して、呉服や味噌、醤油などを商ったり両替商を営んで、江戸屈指の豪商に数えられました。宝暦13年の『新撰道中細見記』には、相可の部で「町の左は大川有川向を射和と云也　よき家居多し　江戸の竹川・富山が本家此所にあり（後略）」と、射和の一見を勧めています。

⑥伊馥寺と延命寺
両寺とも高い石垣を築き、表面を櫛田川岸にあけている。伊馥寺の手前には船着場跡へ下る道がある。

⑦竹川家（射和文庫）
幕末から明治初頭にかけて、経世家竹川竹斎が人材育成のため、私費をつぎ込んで文献を集めて開設した図書館。

⑧国分家
「大國屋」の屋号を持ち、江戸時代「亀甲大」印の醤油が非常に評判となった。「K&K」印のブランドは明治41年に商標登録。

⑨富山家
かつて江戸で呉服商「大黒屋」を営む。家の玄関は東端の小路を入った中程にあり、川と道を等しく意識した建て方になっている。

⑩竹口家
「ちくま味噌」などの製品で知られる豪商の邸宅。屋敷門などに当時の姿をとどめている。

❸鉾ヶ瀬への下り口
倭姫命の伝承地で、古い熊野道は射和から渡し舟や簡単な橋でここへ渡った。下り口に百日咳に霊験のある「おんばさん」がある。

❷鹿水亭
もとは「車屋」の屋号を持つ旅籠で、近年まで旅館「鹿水亭」を営んでいた。西隣は「越後屋」が取り壊され、変則の広い三叉路になっている。

❶相鹿上神社
天兒屋命（アメノコヤネノミコト）、大鹿首（オウカノオビト）の祖も祀る。明治41年の合祀により伊勢本街道沿いから遷座。

❺札の辻
伊勢本街道と熊野道の交差点で文久3年の道標が建つ。右の道標は「みなとや」角から移設したもの。街道の南側は、江戸時代の豪商、大和屋の屋敷跡で、近年まで町役場が置かれていた。

❹レンガ造橋脚
二代目両郡橋のもので、川の中程にも残骸が残る。入口の左は「みなとや」で、右には江戸後期の本草学者、西村廣休遺愛の多羅葉がある。